

## 「第11回くまもと活性化フォーラム」結果概要

日時 : 令和8年6月11日(木) 15:00~17:25

場所 : 熊本地方合同庁舎 A棟 1階 共用会議室

テーマ : 「熊本地震から10年 ~教訓と対話で高める地域防災力~」

### 1. 主催挨拶 九州財務局長 三原 健



### 2. 当局説明

「九州財務局の災害対応にかかる取組」

九州財務局 総務部長 小川 恭史



3. 講演 15:10~15:40

「熊本県の災害対応—過去の災害の教訓を踏まえた、公助力向上のための県の取組」

熊本県 知事公室 危機管理防災局

危機管理課 危機管理防災特別顧問 三家本 勝志 氏



4. 講演 15:40~16:20

「組織の防災力を高めることが地域の防災力に」

熊本大学 副学長/大学院先端科学研究部 教授 竹内 裕希子 氏



## 5. 意見交換 16:30~17:25



くまもと活性化フォーラム（意見交換）概要  
（クロスロードゲームによる災害時意思決定の検討）

1. 開催趣旨

本意見交換では、企業・経済団体・金融機関・報道機関・学界・行政関係者を対象に、災害時に直面する意思決定について多角的に考察することを目的として、竹内教授をコーディネーターに迎え、「クロスロードゲーム」を用いた議論を実施した。

クロスロードゲームは、阪神・淡路大震災の教訓を基に京都大学等の研究者が開発した手法であり、正解のない状況下での意思決定を可視化し、多様な価値観の理解を促すものである。

2. クロスロードゲームの特徴

本手法は、参加者が特定の状況設定のもとで「Yes/No」の判断を行い、その理由を共有することで議論を深めるものである。主な特徴は以下のとおり。

- ✓ 事前の相談なしに各自が意思決定
- ✓ 一斉提示により公平性を確保
- ✓ 決断後に理由を共有し、多様な視点を確認
- ✓ 少数意見を尊重し、単なる多数決に終わらせない

上記から、同一の結論であっても背景となる考え方の違いや、条件に応じた判断の変化が明らかとなる。

3. 主な議論テーマと参加者の意見

クロスロードゲームを用いた意見交換では、災害時の企業の対応を想定した以下のテーマについて議論を行った。各テーマについては、単純な賛否ではなく、条件や立場によって多様な意見や論点が示された。

【クロスロードゲームによる主な議論テーマ（概要）】

テーマ	問い	主な意見・論点	示唆・補足
①企業敷地への避難者受け入れ	自社敷地に避難してきた住民（車中泊を含む）を受け入れるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れる 社会的責任（CSR）の観点、地域との信頼関係の維持（レピュテーション）、緊急避難としての必要性、過去の災害経験からの学び</li> <li>・受け入れ困難 従業員の安全確保が最優先、事業継続への影響、公平性や管理の難しさ</li> <li>・条件付き受け入れ 人数・期間などのルール設定、従業員優先の原則、地域との関係性に応じた対応</li> </ul>	「受け入れる／受け入れ困難」の二択ではなく、ルールの設定など事前準備の重要性が示唆された

テーマ	問い	主な意見・論点	示唆・補足
②備蓄物資 (飲料水) の提供	社員用に備蓄 した飲料水を 避難者にも配 布するか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配布する 人命優先の観点、公平性の確保、社会的評価への影響</li> <li>・ 配布しない 従業員とその家族の保護を優先、物資の有限性、事業継続に必要</li> <li>・ 条件付き配布など 余力の範囲で提供、弱者（乳幼児・要支援者）優先、井戸水等の代替資源の活用</li> </ul>	「余力」の判断基準に加え、熊本地震の再来や南海トラフ地震など、想定される災害ごとの状況を踏まえて検討する必要性が示唆された
③従業員の 地域支援へ の派遣	避難所からの 要請に応じ、 従業員を支援 活動に派遣す るか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 派遣する (※)</li> <li>・ 派遣しない 自社の復旧・事業再開を優先、従業員の安全確保、ボランティアの業務命令化への懸念、本来は行政が担う役割</li> </ul>	対応できない場合でも、代替策の提示や他の支援先の紹介など「次の行動につなげる対応」の重要性が示唆された  (※) 時間の制約上、賛成側の理由は十分共有できず
④支援活動 の情報発信 (SNS)	企業の支援活 動を SNS で 発信するか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発信の利点（論点） 支援の拡大につながる可能性、外部からの支援を呼び込む効果、社会的評価への影響</li> <li>・ 懸念（論点） 宣伝目的と受け取られるリスク、社会的評価への影響</li> </ul>	情報発信は、好影響・悪影響のいずれの側面においても、大きな影響力を有すると示唆があった  (注) 時間の制約上、賛成及び反対の理由は十分共有できず（論点中心の議論）

#### 4. 議論を通じた主な気づき

本意見交換を通じ、以下の点が共有された。

##### (1) 正解のない意思決定への備え

災害時には、明確な正解のない判断が求められる。そのため、過去の災害を知り、そして、平時から想定し、考えておくことが重要である。

##### (2) 立場や経験による判断の違い

同じ状況でも、「個人の立場」、「組織の責任」、「過去の経験」によって意思決定は大きく異なる。

(3) ルールと準備の重要性

「受け入れる」、「支援する」といった判断を実行するためには、「明確なルール設定」、「事前の準備」が不可欠である。

(4) 説明責任とコミュニケーション

意思決定そのものだけでなく、「どのように説明するか」、「どのように理解を得るか」が、結果や評価に大きく影響する。

5. まとめ

クロスロードゲームを通じ、参加者は災害時の意思決定の難しさと、多様な価値観の存在を改めて認識した。

また、以下の点が今後の課題として共有された。

- ✓ 災害時の対応方針の事前整理
- ✓ 企業と地域の連携強化
- ✓ リスクコミュニケーションの推進
- ✓ 防災に関する具体的な準備の充実

本フォーラムで得られた知見が、各組織および地域における防災力の向上につながることを期待される。